

4)科学観

4-1 無限性と有限性

あるがままの対象性を求める科学なる概念について深みある考察が重なる。人間の意図や主観性をもって無限の中から有限を作り対象の観測や解明を行う真相を見て科学なる概念の質実と実態を構成する。

4-2 なぜ？

科学性に技術性がないか。人間の傲慢が強まると技術性がない科学性である観測と評価が生まれる。自己の側の性格や認識が不足し希望的観測の強まる科学的認識を生む。ありのまま映す様子にあるか。なぜその対象を選択したか。無意識的に意図を内在した上に対象の観測を行う。なぜ？の問いが弱まる様子は健全な自律と人間を萎ませる。

4-3 過程と結果性

業績を上げたい意識が強く早急に断定し報じ手柄を得たい欲求が生まれる。過程性が弱まり結果性を急ぐ、即効と短絡か、自律を欠いた生の狂いや盗みにならぬか。感性と思考を減退し精神と感覚が増す。歪な政治屋なる様子が起こる。陶醉した歪性、自己不在、物理受動、

4-4 生の主導、世界の牽引

人間の健全な感性から主体的な領域観や世界観の導出を先んじ、あるべき概念を導出し対象の選定と観測と評価予測を図り意図する基準性を作る態度に生の良質を実現する。科学性を先んじるというよりも人間の健全な欲求や意思が備わり意図する概念を引き出し科学と技術を投じる。

4-5 科学万能性

科学万能的な感覚が増す今日の傾向や潮流について本当に健全な人間と創造の在り方か。生命人間のあるべき姿や性質に重心が備わり科学と技術を作る創造観に不動性を生む。生命人間が社会や自然と生態を主導する態度

に正常が生まれる。思想性と世界観の形成が停滞するのは物理受動と力の支配と破壊の軌道が進行し危うい様子を感じる。

4-6 情報と概念と見識

情報とデータ管理という創造が増す今日の潮流は歪性が進む。あるべき概念性を先んじ対象と優先序列の適正を構成し意図する概念と内容を備え、生命と人間の主体性をもって社会と自然と生態のあるべきを作る能動的性質に健全な生命と世界の主導性が生まれる。物理受動が強まり人間が自ら破壊の道を選ぶ態度は根本的な生の狂いを表す。

4-7 創造の包括観、世界観

無思慮無思考の機械性が異様に進み、意図する目的や概念が希薄化し人間不在の創造を広げる事は誤った軌道が進む。創造の包括観を積極的に問い内容の模索と吟味を重ね意図する世界観の適正をもって科学と技術を従える性質にあるべき生命と世界が生まれる。

4-8 偏狭な世界観、人間の中での争い、肥満性

人間の間で争いが増し偏狭な世界観に留まり愚醜を増す態度と性質は修正する時にある。根本性を問い全体性と大局観を引き出し個別特定の適正に連ねる創造観を必要にする。生命の適正観を土台性にもって社会と自然を主導する生態の牽引性に本来の人間のあるべき性質が生まれる。妙な科学観や創造観は修正が求められる。

4-9 客観性とは

あるべき概念性を欠いた科学と技術は制御不能な歪性を齎せる。生の根本的な破壊と変容、世界の消滅性を招く。金銭欲と金狂いは常軌を逸した病理を生む。客観なる概念は意図する概念の上に成立する。良好な人間性から引き出される意図する概念が重力性と大局性を表し個別特定現象に客観なる概念と適用を与える。

4-10 特定概念と根本概念

科学という特定概念も、感性と概念と精神と身体という根本観点から、意味内容を吟味し、並列性を引き出し一巡的完結の要素構成をもって、確かな内容が生まれる。根本観点到基礎づけられた抽象観に意味内容の適正が生まれる。生命観が歪化すると二次三次と概念の歪性を招く。

分化性が進み、統合の周期を不足すると生の歪性を広げる。

4-11 宗教哲学の実態と文化性

4-11-1 中道

こうした観点と文脈から、中道なる概念の意味内容が精査される。

抽象観念を用いるには、誰にも分かるように詳細を規定し内外に明示し運用する態度に健全な人間と創造が生まれる。曖昧で都合よく用いる性質は疑念と不信、未熟性を伝える。歪な支配性の欲望が前のめり言葉や概念を無思慮的に用いる性質は内外から抵抗と削減、無関心の力が作られる。中道とは何か、考えを示す事が乏しく堂々とした真理性の探究が弱まり、色艶で欺く物理依存の激しい肥満の実態が現れる。

「汚いケツ、しまってくんな。」というようだ。

政治がしっかりしないと、歪な経済と産業・技術性を齎せる。適正観念を導出する教育研究の作用が停滞する事に起因する。健全な感性と性質を求める宗教と哲学の実態が病む様子が伝わる。一過的な現象に留まらず習慣性として文化なる観念を生む。

4-11-2 内面性の外形化

直接的な内面の問いと表現に偏る宗教は、どこか歪な専門の様子を伝える。自己と外界を含む世界観の形成と産出に内面を外形化する姿を生む。理解と納得と共感が増し具体的実感を作る力が進む。広い意味の政治と習慣に文化なる概念を産む。生の性質と質実を認識する。

宗教性、哲学性、科学性、技術性、文化性、

宗教性、哲学性、教育性、経済性、政治性、産業性、文化性、

感性、概念、精神、身体、習慣、性質

お父さん、お母さんに感謝しろ。という表現が見られる。ごく自然のように感じる面と、あまりに一様が過ぎる事への違和感が生まれる。

直接的な当事者性から離れた人に、どうこう指示命令をされる事か。動静不良や肥満の心象を生む。良好な主導、生の牽引性を感じるか。



